日文教育資料［小・中学校社会］

2017
VOL. 17

社会科 NAVI

→ここに注目！

資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメント

本資料は,「教科書発行者行動規範」に則り，配布を許可されているものです。

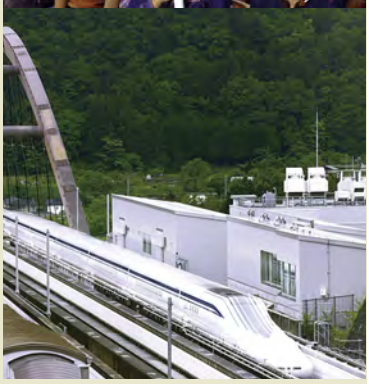
日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！ 日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

社会科 NAVI

2017 17 VOL. CONTENTS



3 著者だより
「世界遺産条約」の精神
京都大学名誉教授 藤井 譲治

4 ここに注目！
資質・能力を育成するための
カリキュラム・マネジメント
早稲田大学教授 博士（教育学） 藤井 千春

6 わたしの社会貢献 vol.1
歴史・地理的地域学習の試み
大阪市立大学教授 水内 俊雄

8 授業力アップをめざす先生のための社会科のABC
小学校編 教科書を教える？ それとも教科書で教える？
～本当の教科書活用法 その3～
國學院大學教授 安野 功
中学校編 学び合いの社会科授業とは？
大阪教育大学・大阪成蹊大学・武庫川女子大学非常勤講師 丹松 美代志

10 みんぱくワールドシネマ vol.17
「火の山のマリア」
国立民族学博物館名誉教授 八杉 佳穂

12 ようこそ！ 歴史史料の世界へ vol.18
『出雲国風土記』の神話
島根県古代文化センター専門研究員 平石 充

14 現代社会ウォッチング vol.5
外国からみる日本の政治 ―ロシアとバングラデシュ
筑波大学大学院教授 辻中 豊

16 地域からの発信
たった4年でシャッター商店街が再生!?
～日南市油津商店街の取り組み～
元テナントミックスサポートマネージャー 株式会社油津応援団 専務取締役 木藤 亮太

18 しごと図鑑
子どもたちのために日本と世界をつなぐ仕事
UNICEF東京事務所コミュニケーション専門官 佐々木 佑

20 大人の社会見学
山梨県立リニア見学センター
広報・企画運営 梶原牧子

表紙写真解説

松江城：国宝，重要文化財。現存 12 天守の 1 つ。平成 24 年に発見された木札（国宝附指定）によって築城年が慶長 16 年 (1611 年) 以前であることが特定されたことが，平成 27 年の国宝指定のきっかけとなった。

著者だより

リレーエッセイ

藤井 譲治（ふじい じょうじ）
専門分野／日本近世史
主要著書／『江戸幕府老中制形成過程の研究』（校倉書房, 1990年），
『天皇の歴史5　天皇と天下人』（講談社, 2011年），
『日本近世の歴史1　天下人の時代』（吉川弘文館, 2011年），
『シリーズ 日本近世史1　戦国乱世から太平の世へ』（岩波新書, 2015年）など
日本文教出版『小学社会』『中学社会』教科書著者

「世界遺産条約」の精神

京都大学名誉教授　**藤井 譲治**

世界遺産に登録されることは，いまや観光の切り札として，その登録には，政治をあげて取り組まれている。

確かに，世界遺産への登録は，観光振興に大きく寄与している。しかし，世界遺産登録の根拠となっているのは，世界遺産条約である。その正式名称は，「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage）」であり，その目的として，「文化遺産及び自然遺産を人類全体のための世界の遺産として損傷，破壊等の脅威から保護し，保存するための国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的とする」が掲げられている。

ここには，観光や活用という言葉はなく，損傷，破壊等の脅威から遺産を保護し，保存するための国際的な協力と援助が求められている。近年の世界遺産登録への多くの動きは，この世界遺産条約の精神をどれほど堅持しているだろうか。

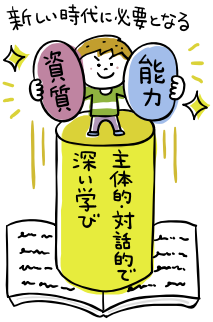
Heritage の日本語訳を「遺産」とするのはまったく間違いとはいえないが，日本語の語感とは少し異なり，後世に受け継がれていくもの，未来に残すべき先祖伝来のもの，といった意を持つ言葉である。

日本遺産は Japan Heritage と英訳されているが，「地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー」を日本遺産とするとされ，そこには文化財の保存・保護，後世への継承といった視点はまったく記されていない。その意味で，日本遺産の場合，少なくとも英訳に Heritage の語をあてるべきではないだろう。

過度の活用を推し進めた結果，文化財が滅失あるいは大きな損傷を受けてしまえば，多くの場合，その復原は困難を極める。観光推進，遺産の活用を進めるときも，「遺産」を後世へ継承するには保護・保存の精神を第一義とすべきではないかと思う。

ここに注目！

資質・能力を育成するための カリキュラム・マネジメント



●早稲田大学教授　博士（教育学）藤井 千春

1 アクティブ・ラーニングの形式化

アクティブ・ラーニングの導入が全国各地の学校で試みられている。

アクティブ・ラーニングとは，「主体的・対話的で深い学び」を遂げるための学習活動の在り方である。そのめざすところは，「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」である。

しかし，アクティブ・ラーニングの導入として，「ペア学習」,「グループ作業」,「（ミニ）ディベート」,「ジグゾー法」など，子どもたちが動く活動を形式的に取り入れただけの授業がしばしば見られる。

もちろんそのような小手先の方法を形式的に取り入れただけでは，アクティブ・ラーニングとはいえない。重要なことは，先に述べたように，学習活動を通じて，「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」をめざすことである。

2「主体的・対話的で深い学び」とは

「新しい時代に必要となる資質・能力」とはどのような資質・能力なのか。「主体的・対話的で深い学び」の意味を考えることによって明らかにしよう。

「主体的な学び」とは，子どもが「考える」学習活動である。たんに「覚える」のではなく，問いを持ち，自ら調べて，明らかになった事実の意味について検討し，自ら知識を構築していく学び方である。つまり探究である。したがって，授業において教師は，子どもに「理解して覚える」ことではなく，「問い，調べ，考え，判断し，表現する」ことを求めなければならない。「正答」を覚えることではなく，自ら知識を求めてその構築を試みたという，探究的に考えたことの密度の濃さが重要なのである。つまり，授業において，子どもたちの頭の中をアクティブにして，探究する資質・能力の育成をめざすのである。

「対話的な学び」とは，子どもたちが相互に，あるいは現実の世界の「人・もの・こと」と「かかわり合う」学習活動である。自分（たち）で設定した課題の達成という目的のもと，「問い，調べ，考え，判断し，表現する」という探究の過程で，他者とコミュニケーションして協働するという学び方である。したがって，授業において教師は，子どもたちが相互に，あるいは現実世界の「人・もの・こと」とコミュニケーションし協働する場を設定し，それを子どもたちに促進しなければならない。互恵的な相互作用の密度の濃さが重要なのである。授業において，子どもたちの「かかわり合い」をアクティブにして，課題の達成に向けて他者と協働するためにコミュニケーションできる能力の育成をめざすのである。

「深い学び」とは，自ら学ぶことへの自信を深め，その後の学びへの意欲を高めていく学習活動である。「主体的・対話的な学び」を通じて遂げられた「学び」について反省的に自己認知し，その後の学びへの基盤（意欲と自信）を形成するという学び方である。したがって，授業において教師は，子どもたちに学習活動を通じて，自分がどのように動きかかわり合うことによって，自分がどのように変わったか（成長したか）を自覚できるように支援しなければならない。そのように「振り返り」をさせることが重要である。自らの学びを密度濃いものとして自ら価値づけさせるのである。子どもたちが学びに対してアクティブにして，自ら学び自らを高めていくことのできる資質・能力の育成をめざすのである。

「主体的・対話的で深い学び」を通じて，探究する資質・能力，コミュニケーション（協同に参加・貢献する）資質・能力，自己教育し続ける資質・能力の育成を目指すのである。

3 カリキュラム・マネジメントのポイント

カリキュラム・マネジメントとして，何がポイントとなるのか。

第一に，「主体的・対話的で深い学び」を重点的に行い，先に示したような資質・能力が育つための中心となる柱を設定することである。

中心となる柱は，生活科や総合的な学習でもよい。もちろんそれぞれの学校で研究として取り組む教科でもよい。それぞれの教師ごとに研究教科を決めてもよい。社会科はそのような柱としやすい教科である。

重要なことは，その柱となる中心的な教科や時間で「主体的・対話的で深い学び」を積み重ね，そこで育った学び方が他の教科や時間に波及するように図ることである。つまり，中心となる時間や教科での学習活動の経験で育てられた資質・能力が，他の教科や時間との間で「内容」的，活動的に関連して活かされていくようにカリキュラムを構成することである。

ただし，中心となる柱を教科に置く場合，単元間で軽重を付けることが必要となる。「主体的・対話的で深い学び」を子どもたちに重点的に経験させる単元では，総合的な学習と合科にしてもよい。重点を置く単元では，子どもたちの資質・能力がしっかりと育成されるように時間をかけるのである。それにふさわしい教材が開発され，活動が設定されなければならない。そして，他の単元では子どもたちに育成された資質・能力をどのように発揮（活用）させ，どのように効率的に学習活動を進めさせるのかを計画するのである。

第二に，「子どもたちを育てる」ことについて，子どもたちの学校生活全体の在り方から配慮がなされていなければならない。

子どもたちが，自分たちで問題を見つけて考え判断して行動すること，仲間と互恵的にかかわり合って相互に対する肯定的な感情が高められることなどが，各教科や時間の学習活動のあらゆる場面で設定され，保障されていなければならない。第一の点との関連でいえば，中心となる柱で育成された資質･能力を子どもたちが実際に発揮（活用）して行動できるような学校生活となっていなければならない。

子どもたちの資質・能力を育成するとは，子どもたちの生活の仕方（生き方）を構築させていくことである。子どもたちに授業（学習）と生活とを別々の活動と見なさせてはいけない。そのような二元的な構え方に支配されていては，子どもたちにとっていつまでも「授業は授業（虚構の世界）」にすぎないものとなる。子どもたちの生活の仕方を育てるという視野においてカリキュラムは編成されなければならない。

4 子どもの生き方を育成するカリキュラム

カリキュラム・マネジメントには，学習指導と生活指導との統一という視点が求められる。

「主体的・対話的で深い学び」を通して育成する「新しい時代に必要となる資質・能力」とは，端的に言えば，自ら課題を設定してその達成に向けて他者と協同して取り組むことを通じて，自らを引いては社会を高めていくことのできる資質・能力である。そのような子どもの生き方なのである。そのような資質・能力は，小手先の方法や学校生活全体から切り離された特段に設定された活動で育成することはできない。

カリキュラム・マネジメントにおいて，中心となる柱をしっかりと設定すること，そして，そこで育成された資質・能力が学校生活全体で活用できるように関連付けることが重要である。

● **藤井 千春**（ふじい ちはる）
専門分野／教育学，教育思想
主要著書／『問題解決学習の授業原理』『アクティブ・ラーニング授業実践の原理』（明治図書），『校長の哲学』（学事出版）
日本文教出版『小学社会』『わたしとせいかつ』教科書著者

わたしの社会貢献 vol.1

歴史・地理的 地域学習の試み

●大阪市立大学教授 水内 俊雄

今日，研究者の成果は専門家のものだけではなく，広く公開・啓発が求められる時代になっています。本シリーズは「わたしの社会貢献」と題して，一線で活躍されている研究者の先生方が，学校や企業をはじめ，地域社会に研究成果を還元している具体的な取り組みについてご紹介します。

大学の地域・社会貢献を担う本学地域連携センターの事業として，小学校への「出前授業」に関わっている。「社会科 NAVI」15 号で簡単に取り上げたが，今回は少々詳しく紹介してみたい。小学生に対する地域学習として，こうして今の状況になった，という変化の要因に注目させることで，なぜという発想が生まれ，地理的現象の学習が促進されるのではないかと期待している。こうした地域学習の試みを紹介したい。

地域の形成の歴史・地理を，地名とその範囲を知ることを目標として，４つの視点から授業を進めている。①地名にはいろいろな意味や記憶がつまっている，②広く地域で存在するものが，校区内にも存在する，③広く社会で起こった出来事が校区内でも起こった，④広く社会ではなかなか見られないが，校区内では見られた，の４点である。

地名の由来と村の存在を知る

校章，校歌で①に触れることができればそこを導入とするが，そうでない場合の定番は，校名の由来から始めることになる。次に子どもたちに住所地名をあげてもらいながら，じゃあ，江戸時代はどうだったのかな，という観点を提示する。その際に一番使いやすいのが図１の江戸期の国絵図となる。校区の範囲を示しながら，○○村だったんだ，ということを確認する。その次に明治の地

図１

図を使う。特に明治末期の正式２万分の１は，地域描写にすぐれている。なければ５万分の１や，明治期に刊行された市販の都市図などを用いる場合もある。図２は２万分の１であるが，校区を囲うことにより，何にもなかったんだ，とか大きな集

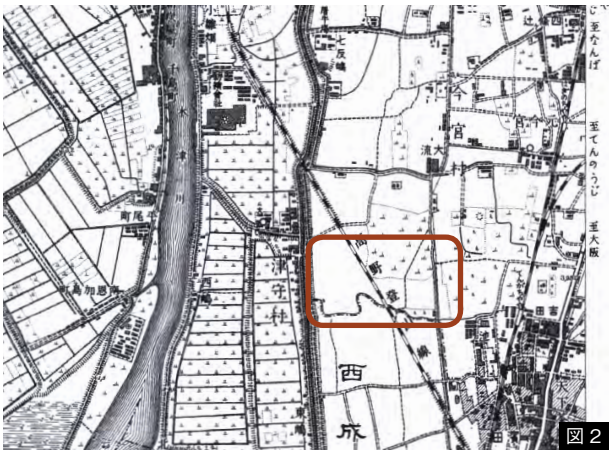


図２

落だったんだ，と百十年前の状況を地図から読み取る。当時の写真（図３）などを見せると，納得度は高まる。伝えたいことは，江戸期の「藩政村」＝制度上の「村」の名が，地域名の基礎であることである。城下町内の町丁については異なる説明が必要であるが省略する。そして小学校のある場所の江戸時代の地名，明治時代の地名を書き（できれば小字まで），地名の構成を確認する。

図３

どこにでもあるもの・出来事は，ここにもあり，また起こる

このテーマは上述の②，③にあたるが，教える重要性は，地域の空間的構成としての必須のパーツを伝えたいことにあり，小学校と神社を必ず用いる。神社については，初詣ではどこに行く？，地元の祭りはどこの祭り？というところから導いてゆく。場合によっては，お参りするお墓はどこにある？おうちに仏壇はあるかな？という聞き方になる。神社は産土神であり，1889 年の市町村制施行以後に，藩政村≒氏子域を合併してできた「明治行政村」という，江戸期よりは拡大された地理的ユニットの村の成立を伝えることになる。図４で説明するが，この範域が創設時の小学校区になるという，藩政村＜明治行政村という，基本的地域の拡大をここでは知ってもらいたい。またこの範域で人口増加の激しいところでは小学校が増えてゆき，また少ないところでは統合されていくあたりを教えて，その土地土地の発展の系譜の特徴を知ってもらうことになる。

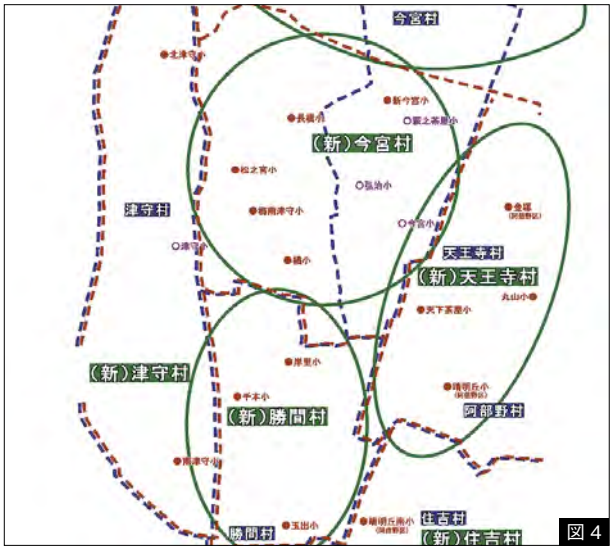


図４

ここにしかない，ここにしか起こらなかったこと

大阪市南部で教える場合，ナショナルな存在として住吉大社，熊野古道，紀州街道などがあり，また大和川の付け替え，狭山池の水利，２度の室戸台風といった甚大な災害，特異なものとしては日露戦争の俘虜収容所があったことなどを，地域で知っておくべき存在，出来事として伝える，という導き方をしている。鉄道についても，場合によっては私鉄による地域の開発の力を教え，都市計画でも先進的な取り組みなどはここで強調することになる。

歴史・地理を教える

地理の地域学習といっても，私の場合は，歴史と地理が融合しており，なかなか初等教育の地理として根付かせるのは困難かもしれない。ただミクロな地域史やマクロな出来事なども伝えていくことは，子どもたちにとっては，地域の系譜を正確に理解することになり，地域のプライドの醸成にもつながる。時間軸を意識した動態地誌は，アンケートから見る限り，子どもたちの反応はよいし，教員からも研修に入れてほしいという要望をいただく。しばらくは地域学習の模索を続けてみたい。

（出典）
図1. 元禄摂津国絵図（1702 年刊，国立公文書館デジタルアーカイブより）
図2. 正式2万分の1地形図「大阪西南部」（1909 年,大日本帝国陸地測量部）
図3. 木津川より津守新田方面を望む。明治 30 年代後半撮影（西成情報アーカイブ所蔵）

●水内 俊雄（みずうち としお）
専門分野／人文地理学
主要著書／『空間の社会地理』（編著，朝倉書店，2004 年），『モダン都市の系譜』（共著，ナカニシヤ出版，2008 年），『都市大阪の磁場』（編著，大阪公立大学共同出版会，2015 年），『都市の包容力』（編著，法律文化社，2017 年）
日本文教出版『中学社会』教科書監修者

授業力アップをめざす先生のための

社会科のABC

小学校編

教科書を教える？ それとも教科書で教える？
～本当の教科書活用法 その3～

●國學院大學教授　安野 功

今回は，教科書を最大限に活用した１時間の授業の組み立て方がテーマです。これは，前号ですでに述べた教科書分析の**オ**（導入で本時の「？」を引き出す資料，山場の話し合いで使う資料をどれにするかを考え，提示の仕方，発問などを考える）の詳しい解説になります。ポイントは二つあります。

一つ目は，本時の目標を実現する上で欠かすことのできない「中心資料は何か」をチェックすることです。

具体的には，本文記述とそれを裏づける資料をもとに本時の目標設定と中心資料の洗い出しを行います。

下の事例では，本文記述「日本では，毎年のように自然災害がおきている」「日本ではいろいろな自然災害がおこっている」とそれを裏づける資料❶及び教科書P.100～101の綴じ込み資料「日本の自然災害」をチェックします。これらを中心資料として活用し，気になることを話し合わせるなど授業の山場をつくり，国土の自然災害に対する問題意識を高めていくのです。

二つ目は，中心資料へと子どもの意識を導いていく「魅力あふれる導入」を工夫することです。

具体的には，教科書のどの資料をどのように活用して本時の「？」を引き出すのかを考え，提示の仕方や発問などを工夫していきます。

下の事例では，まず，資料❶の災害年表へと子どもの意識を導くために，年表中の災害，例えば，東日本大震災の写真を提示します。次に，「それが，いつ，どこでおきたのか」を確認し，被害の様子を読み取っていきます。さらに，キーワードコーナー「自然災害」の意味をおさえ，「2011年より前や後にも」「東日本以外の場所でも」「地震や津波以外の」自然災害がおきているのかと問い，「おきているはずだ」といった反応を引き出し，「日本では，どんな自然災害がおこっているのだろう」という本時の「？」を見いだしていくのです。

なお，資料を組み込んだ板書の作成については，次号で詳しく紹介します。

写真提供：朝日新聞社，共同通信社，時事通信フォト，読売新聞社

「中心資料は何か」をチェックし，
それを活用する山場へと導く
「魅力あふれる導入」を工夫しよう！

中学校編

「対話と協同」の授業に教科書を生かす

●大阪教育大学・大阪成蹊大学・武庫川女子大学非常勤講師　丹松 美代志

●単元計画に教科書の目次を活用する

日本文教出版の歴史的分野の第４編「近世の日本」の「中世から近世へ」の単元は，

1. イスラム教の世界とキリスト教の世界　2. つながれてゆく世界　3. ヨーロッパ人の来航と信長　4. 全国統一と近世社会の基盤づくり　5. 秀吉の海外政策　6. 安土桃山時代の文化

となっています。ここからわかることは６時間の授業計画であること。そして，世界史における大航海時代の中で，我が国が近世社会を迎えるということです。その時，世界と日本を結ぶキーワードは銀の生産です。当時の貿易には銀が使われていました。教科書 P.103 の「❺銀の採掘に働かされるインディオ」の挿絵は，その一端を示したものです。1526 年に博多の豪商・神谷寿禎（かみやじゅてい）が石見銀山の開発を始めると，我が国の銀の生産は最盛期を迎え，近世のはじめにかけて，世界で流通する銀の３分の１を生産したといいます。当時，我が国は「銀鉱山王国」と認識されていました（1568 年にポルトガル人の作成した地図に表記）。このことが，やがてポルトガル人による鉄砲の伝来やイエズス会によるキリスト教の布教につながります。

●本文の見出しから本時の課題を探る

本単元の「4. 全国統一と近世社会の基礎づくり」のねらいを「学習課題」と本文の見出しから探ります。課題は「全国統一を果たした豊臣秀吉は，どのようにして人々を支配していったのだろう。」であり，これに対する答えとして，見出しの三つを繋いで答えを導き出します。

「豊臣秀吉の全国統一」により，全国的に「太閤検地」と「刀狩」を実施し，荘園制を否定し，検地帳に記載された百姓が年貢を負担する社会になった（近世社会の到来）。

●教科書を発展的に生かす

「全国統一と近世社会の基礎づくり」に迫るために，織豊政権の成立を意識して，全国統一は，信長と秀吉によって成し遂げられたことに留意します。そこで，教科書の「❷織田信長・豊臣秀吉の勢力の広がり」の歴史地図を活用して，信長と秀吉の統一事業を一体的に捉えることができれば，30 年かかった統一事業の全体像がはっきりします。授業のねらいを明確にすることができれば，教科書の再構成が可能になります。

▲ 日本文教出版発行『中学社会歴史的分野』（P.108～109）

みんぱく vol.17 ワールドシネマ

「火の山のマリア」

2015 年 グアテマラ・フランス映画 93 分
監督／ハイロ・ブスタマンテ

●国立民族学博物館名誉教授 八杉 佳穂

© LA CASA DE PRODUCCIÓN y TU VAS VOIR-2015

【DVD 発売中】
価格　：¥3,800（税抜）
発売元：新日本映画社
販売元：ギャガ
品番　：GODR-1307
本編時間：93 分

マヤ語の一つ，カクチケル語を話す人々を描いたこの映画は，グアテマラ生まれのハイロ・ブスタマンテ監督の初の長編であり，2015年のベルリン国際映画祭で銀熊賞に輝いた秀作である。内容はなかなか重い。

あらすじ

17歳の主人公マリアの家族は，グアテマラ高地の火山の麓の土地を借り，家畜を飼い，農業を営んでいるが，生活苦であり，またいつ追い出されるかわからない不安な生活を送っている。そこでマリアをコーヒー農園の主任のイグナシオに嫁がせて，生活の安定を計ろうとする。しかしマリアはコーヒー農園で働くペペに惚れていたので拒否する。そしてアメリカに出稼ぎに行こうとするペペについていこうと身を任せ，妊娠してしまう。それを知った母フアナは，何とか流産させようとさまざま試みるが，ことごとく失敗する。臨月を迎えたマリアは，妊婦が蛇を追い払うという迷信のもと，畑に出るが，逆に蛇に咬まれてしまう。すぐさまグアテマラ市の病院に運ばれる。スペイン語のわからない母フアナは，治療のためと思い，言われるまま書類にマリアの拇印をおさせる。だがそのために赤ん坊は半ば合法的に奪われる。赤ん坊が死んだと教えられたマリアは，赤ん坊への愛ゆえ，埋葬された棺を掘り起こし，棺の中に石しかないことを見て，事態を知る。失意のどん底に落ちたマリアは，もはや感情を失ったかの如く，親にいわれるまま，白いベールをかぶせられ花嫁となる。

映画の背景

映画の舞台となっているグアテマラは，マヤ文明の地である。16世紀の初めには，その栄光はすでに過去のものであったが，グアテマラ高地では，キチェ人やカクチケル人のウタトランやイシムチェなどの都市が栄えていた。しかし1524年にペドロ・アルバラードに征服され，スペイン人に服従の生活を余儀なくさ

れる。社会は，支配し収奪する側と支配され搾取される側に分かれてしまった。支配者のスペイン人は少なかったため，混血が進み，ラディーノと呼ばれる人々が社会の主流となり，マヤ人達は下層に追いやられた。それは現在に引き継がれている社会の基本構造となっている。

内戦の激化やグローバル化によって，1980年代からの社会の変わりようは激しい。1996年には，30年以上続いた内戦が終結して，平和な社会になると期待された。確かに現代文明の恩恵がいたるところにみられ，経済規模が大きくなり，働く場所も増えた。いまではだれもが携帯電話を持ち，また，テレビやコンピュータを通して世界と接することができる。しかし，征服以後から続く社会の不均衡は解消されず，グローバル化とともに，貧富の差は一層大きくなり，犯罪が多発する社会となっている。

現代化がもっともよく見えるのは，女性の服装と町村の風景であろう。1970年代まで，各村には各村の習俗があり，村特有の民族衣装があったが，80年代に入ると，伝統的な腰機（織機）を使って上衣（ウィピル）を織る女性は少なくなった。のどかで美しい村の風景も，1976年の大地震後，瓦屋根はトタン屋根に，壁はブロックに変わり，また出稼ぎの金の流入で新築の建物が増え，一変した。グアテマラ市は高層ビルが建ち並び，急増した人や車でごった返している。

マヤ人達の間の意識の変化も顕著で，支配から脱却する意識が拡大し，自分たちの尊厳を守るため，親から伝えられた伝統や言語を大切にする運動が顕著になった。1990年にはマヤ言語アカデミーが創立され，自分たちの母語を大切にする制度が確立した。しかし政府の資金や国外からの援助の減少で，その運動もピークを越えた。

カクチケル人は首都のグアテマラ市に近いところに住んでいる。そのため主食のトウモロコシに加え，野菜や果物など，巨大な人口を養う食糧供給地帯となっている。またグアテマラ市に毎日バスで働きに行ける距離であるため，都市を支える仕事に就く人も多い。

しかしながら，いまでも生活の基本は変わらない。電気や水道は引かれたものの，停電はよく起こるし，水道は各家庭１カ所しかないのがふつうである。料理は，薪をつかい，トウモロコシを使った主食であるトルティリャやタマリットに，スープや肉や野菜が添えられることがあるが，概して質素である。

子供達は学校に通うようになり，スペイン語を当たり前のように話せる子が増えたが，町から離れたところには，公用語であるスペイン語を話せない，読めない人がいまだにいる。グアテマラ社会でマヤ人達は多数を占めているのにもかかわらず，不利益はいたるところにみられる。それは映画だけの世界ではない。

▲ カクチケルの女の子シェリーとともに

▲ アンティグア・グアテマラの有名なアーチとアグア山

●八杉 佳穂
（やすぎ よしほ）

専門分野
中米言語学，文字学，中米文化史

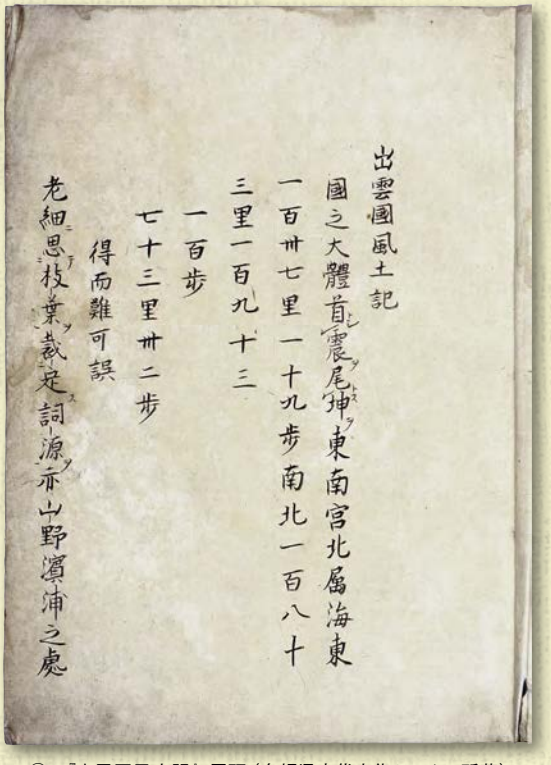
主要著書ほか
『マヤ文字を書いてみよう読んでみよう』（2005 年，白水社），『チョコレートの文化誌』（2004 年，世界思想社），『マヤ文字を解く』（2003 年，中央公論新社）

国立民族学博物館（みんぱく）では，11月5日（日）の映画会「みんぱくワールドシネマ」で，「火の山のマリア」を上映します（無料。ただし，展示観覧券が必要です）。
詳しくはみんぱくのホームページ http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/をご覧ください。

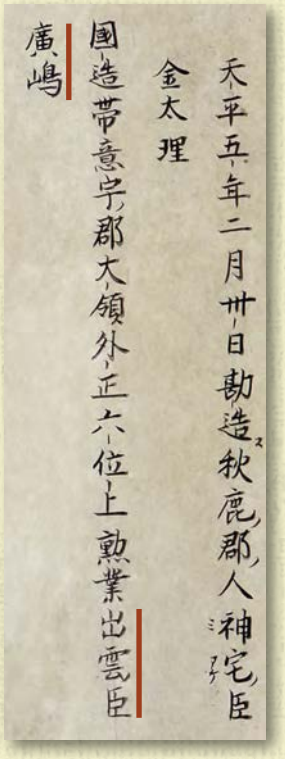
ようこそ！
歴史史料の
世界へ vol.18

『出雲国風土記』の神話

●島根県古代文化センター専門研究員 平石 充


出雲國風土記
國之大體首震尾神東南宮北屬海東
一百卅七里一十九歩南北一百八十
三里一百九十三
一百歩
七十三里卅二歩
得而難可誤
老細思枝葉裁定詞源亦山野濱浦之處

▲① 『出雲国風土記』冒頭（島根県古代文化センター所蔵）


天平五年二月卅日勘造秋鹿郡人神宅臣
金太理
國造帯意宇郡大領外正六位上勲業出雲臣
廣嶋

▲② 『出雲国風土記』巻末署名（島根県古代文化センター所蔵）

現存する唯一の風土記完本

奈良時代の和銅6（713）年，諸国に対し郡郷名に好字をつけること，また産物や土地の肥沃，古老の伝える神話伝承を報告するよう命令が出された。この命令で編纂されたのが風土記で，その中身は国内の郡ごとに郡・郷や山川などの名称の由来，産物などを書き上げた地誌である。記述の中心を占める地名の由来とは，歴史的事実を記したものは少なく，多くが地名に関する神話・伝承である。

奈良時代には60余りの国があったが，このとき提出された風土記のうち，唯一ほぼ完全な形で現在に伝えられているのが『出雲国風土記』で（島根郡の一部のみ脱落あり），完成年月日，編纂にあたった人物が記載されている唯一の風土記でもある。完成年は天平5（733）年2月30日。『古事記』（712年），『日本書紀』（720年）などと同時代の史料である。

出雲国造による編纂と国引き神話

『出雲国風土記』の性格を考えるとき，最も重要なのは最後に編集責任者として署名する出雲国造出雲臣広島（いずものくにのみやつこいずものおみひろしま）である［②］。先に記したように，風土記撰進の命令は本来国（国司）に対して出されており，出雲以外の風土記の編者は国司であると考えられている。当時の国司とは近畿地方からの派遣官僚なので，出雲以外の風土記は，現代でいえば県レベルでまとめられているものの，中身は中央政府の立場で書かれている。

これに対し，出雲国造出雲臣というのは，古墳時代，6世紀頃から続く出雲の地域社会の首長であり，出雲臣は後に出雲大社の宮司家となって現在に到っている。彼によってまとめられた『出雲国風土記』は奈良時代唯一の地域の立場からまとめられた典籍ということができる。

さて，『出雲国風土記』の冒頭近くに，意宇（おう）郡の地名由来として，いわゆる国引き神話が記されている。「意宇（おう）と号（なづ）くる所以（ゆえ）は…」で始まるこの神話は，八束水臣津野命（やつかみずおみつぬのみこと）という神が最初小さかった出雲国を大きくしようとして，「栲衾志羅紀三埼（たくぶすましらきのみさき）」ほか日本海沿岸の遠隔地から土地を引き寄せ，今の三瓶山と大山を杭にしてつなぎ止めた。国引きを終えて杖を突き立て「おえ」といったことから意宇（郡）という地名ができたというもので，出雲における国土創成神話である。意宇郡とは出雲国造出雲臣の本拠地なので，これは出雲国造による

出雲の政治的統合過程を神話化したものと考えられている。

また，国引き神話は『出雲国風土記』のなかで最も長い条文で，「河船の毛曽呂毛曽呂」に見えるように擬態語などを含む口語表現があり，同じフレーズが繰り返される。この神話も文章で残されている以上，なんらかの形で編集の手を経た神話ではあるが，おそらく出雲で実際に「語られてきた神話」の要素を色濃く残していると考えられている。

一方，中央政府の国土創成神話は，『古事記』『日本書紀』に語られるイザナキ・イザナミによる国生みからはじまり，神武天皇の即位でおわる。基本的に天皇を中心とした古代国家の国土支配を正当化するために，編集・体系化された神話だということができる。両者は全く異なる神話であって，『古事記』『日本書紀』には国引き神話は登場せず，『出雲国風土記』にも基本的に国生み神話は見えない。

まとめると，地域首長によって記された『出雲国風土記』には，古代国家によって体系化された神話・伝承とは異なる，地域社会が本来的に有していた神話が記されている，といえる。もちろん国引き神話も地域首長による政治的な神話で，本当に出雲の民間で語られていたかどうかはわからない。それでも，『出雲国風土記』に記される神話は，古代社会で実際に語られた神話がどのようなものであったのかを考える上でたいへん貴重な素材なのである。

■『出雲国風土記』意宇郡条（国引き神話）

意宇と号くる所以は，国引き坐しし八束水臣津野命，詔りたまひしく，「八雲立つ出雲の国は，狭布の堆れる国なるかも。初国小く作らせり。故，作り縫はな」と詔りたまひて，「栲衾志羅紀の三埼を，国の余ありやと見れば，国の余あり」と詔りたまひて，童女の胸鉏取らして，大魚の支太衝き刎ねて，波多須々支穂振り刎ねて，三身の綱打ち挂けて，霜黒葛闇耶闇耶に，河船の毛曽呂毛曽呂に，「国来，国来」と引き来縫へる国は，去豆の折絶よりして，八穂米支豆支の御埼なり。

かくて堅め立てし加志は，石見国と出雲国との堺なる，名は佐比売山，これなり。また，持ち引ける綱は，薗の長浜，これなり。

また，「北門の佐伎の国を，国の余ありやと見れば，国の余あり」と詔りたまひて，童女の胸鉏取らして，大魚の支太衝き刎ねて，波多須々支穂振り刎ねて，三身の綱打ち挂けて，霜黒葛闇耶闇耶に，河船の毛曽呂毛曽呂に，「国来，国来」と引き来縫へる国は，多久の折絶よりして，狭田の国，これなり。

また，「北門の良波の国を，国の余ありやと見れば，国の余あり」と詔りたまひて，童女の胸鉏取らして，大魚の支太衝き刎ねて，波多須々支穂振り刎ねて，三身の綱打ち挂けて，霜黒葛闇耶闇耶に，河船の毛曽呂毛曽呂に，「国来，国来」と引き来縫へる国は，宇波の折絶よりして，闇見の国，これなり。

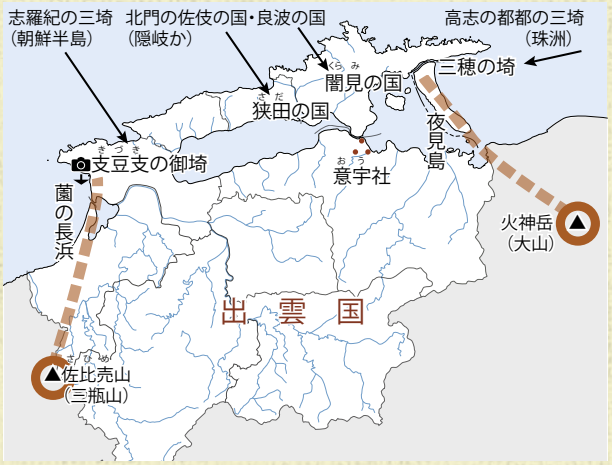
また，「高志の都都の三埼を，国の余ありやと見れば，国の余あり」と詔りたまひて，童女の胸鉏取らして，大魚の支太衝き刎ねて，波多須々支穂振り刎ねて，三身の綱打ち挂けて，霜黒葛闇耶闇耶に，河船の毛曽呂毛曽呂に，「国来，国来」と引き来縫へる国は，三穂の埼なり。

持ち引ける綱は，夜見島なり。固堅め立てし加志は，伯耆国なる火神岳，これなり。「今は国引き訖へつ」と詔りたまひて，意宇社に御杖衝き立てて，「意恵」と詔りたまひき。故，意宇と云ふ。

謂はゆる意宇社は，郡家の東北の辺，田の中にある塾，これなり。周八歩許り。その上にひともとのきありて茂れり。

『松江市史史料編３　古代・中世編』より引用

▲ 支豆支の御埼から見た佐比売山と薗の長浜（島根県古代文化センター提供）

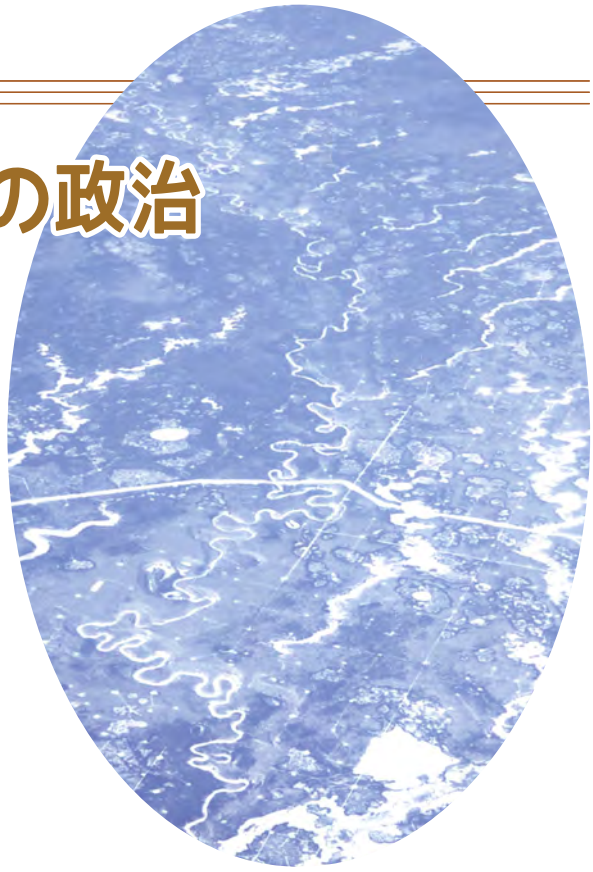


▲ 国引き神話概念図

●平石 充（ひらいし　みつる）
専門分野／日本古代史
主要著書／『解説　出雲国風土記』（編著　島根県古代文化センター，2014年），『松江市史　通史編１　自然環境・原始・古代』（編著　松江市史編集委員会，2015年）。

外国からみる日本の政治 ―ロシアとバングラデシュ

●筑波大学大学院教授 辻中 豊



▲ ロシア，初冬のシベリア

日本の隣国は人口が大きく，また極めて多様

前回，世界各国のうち，世界十位（1.26億人）にあたる日本と人口規模という点から似た国として，8位のバングラデシュ（1.61億人），9位のロシア（1.43億人）をとりあげると述べました。日本の45倍の広さのロシア，日本の4割と小さいバングラデシュの両国が，日本より少し大きい人口を擁しています。ちなみに，太平洋を挟む隣国であるメキシコは11位で1.22億人，フィリピンは12位で1.04億人です。これまで触れてきた中国，アメリカを含め日本と海を隔てた隣国は人口という点で大国が多いですね。

しかし，国土，人口密度，気候風土，歴史といった様々な点で，これらの国々はお互いに大きな違いがあります。このエッセイでは，市民社会，とりわけ近隣地域であるコミュニティや人間関係を示すソーシャルキャピタルが政治と民衆の関係を考えるうえで，特に民主主義を考えるうえで重要ではないか，と示唆してきました。それゆえ日本のそれぞれの隣国は政治的にも極めて多様だろうと考えられます。

ロシア―縮みつつある広大で多様な権威主義大国

初冬のロシアを訪問する途上，飛行機から外の景色をうとうとしつつ何度か眺めると，荒涼としたシベリアの大地がいつまでも続くのに驚きました。北極海かと見間違うほどの，雪氷と湖と大河の大湿原地帯が広がっています。この広大な国土に百数十もの民族集団（スラヴ系が83％）が26の公用語と100近くの多様な言語を用いつつ，暮らしています。また中国，モンゴル，カザフスタン，ウクライナ，ポーランド，エストニア，フィンランドなど世界最多の10数か国と接していることも特徴です。ところが人口はわずかに日本の1.1倍，人口密度は約40分の1で，しかもこの25年間，人口減少が続いています。そして資源に恵まれながらも1人当たりGDPは日本の3割前後です。

広大なロシアは，多民族を基礎とした85の構成主体からなる複雑な連邦制度を採用しています。社会主義体制の崩壊後1990年代には自由主義（経済）の世界に入るかと思われましたが，2000年にプーチン政権が登場した後，急速に権威主義化が進み，国際NGOであるFREEDOM HOUSEによれば，政治的には市民の権利保障もメディアの自由も不十分な「自由のない政治体制」[※1]に戻っています。広大で人口希薄な多民族国家ロシアにおいて，指導者が常に念頭におくのは安全と統合の問題です。国際的な大学間会議においてロシアの学者たちは常にプーチンの意向を忖度して神経質に行動しているように見えました。

つまり政治の基盤となる市民社会，ソーシャルキャピタル（社会的な人間関係）の在り方が日本などとはずいぶん異なるのです。市民社会の質が

連邦主体ごとにバラバラであり，また70年余の社会主義・共産党一党制のために，市民の間の民主的規範や革新力は，国家権力に抑圧され脆弱に見えます。

バングラデシュ―人口の稠密さと政治腐敗に対抗する社会革新

このロシアの広大・人口過疎・減少と対照的なのがバングラデシュです。政策的に人口は抑制され始めたとはいえ，調査のため訪れた首都ダッカには文字通り人があふれていました。人口密度は日本の約3倍，ロシアの120倍以上です。この国のメディアへの評価は「部分的に自由な国」※2 で，ロシアよりずっと自由がある国と評価されています。

▲ バングラデシュ，家電工場

バングラデシュにはロシアと似ている点もあります。それは政治の腐敗ぶりです。Transparency International（国際透明性）という国際NGO※3が公務員と政治家の腐敗度指数を毎年公表していますが，バングラデシュは100点満点の25点で139位，ロシアは29点で119位（2015年）でした。※4 時として強権的な政治になるのですが，バングラデシュには常に複数の政党が存在し，競争的な選挙がほぼ定期的に行われ，2大政党による政権交代（アワミ連盟対民族主義党）も定着しています。繊維産業を中心に順調に経済成長が続き，新興経済国入りしつつあるとはいえ，貧困層が厚い途上国の一つです。ここには，地方自治がほとんどなく，大学教員なども含むほとんどの社会組織が2大政党に系列化されています。問題のありかは，政治と政府のガバナンス（国家と市民社会の諸アクターの関係）にありそうです。政府の非効率・腐敗，政党の動員や社会支配です。

バングラデシュのもう一つの大きな特徴は，ガバナンスの問題を補うように，市民社会の勢力が盛んなことです。世界的に見ても巨大なＮＧＯ（ＢＲＡＣ，グラミン銀行※5）が小規模信用貸し（マイクロクレジット）や大学経営，流通業など次々と社会革新の自治的方策を生み出しています。

いろいろな体制と国々を見てきましたが，すべての国々で共通の合言葉が囁かれています。それが社会革新の方策（social innovation）です。次回はこれについても触れてみましょう。

●**辻中 豊**（つじなか ゆたか）
専門分野／政治学
主要著書／『大震災に学ぶ社会科学 第1巻 政治過程と政策』（東洋経済新報社，2016年），『現代日本のNPO政治―市民社会の新局面（現代市民社会叢書）』（木鐸社，2012年），『利益集団（現代政治学叢書）』（東京大学出版会，1988年），日本文教出版『中学社会』教科書著者

※1. FREEDOMHOUSEの評価では，政治的な自由は最低（7段階中最低の7），市民的な自由もほぼない（7段階中低位の6）と毎年低下した。
※2. 政治的な自由は中位（7段階中の4），市民的な自由も中位（7段階中の4），いずれも中位に停滞している。
※3. ドイツ，ベルリンに本部事務局を置くNGO。1995年から毎年，「世界の腐敗レポート」「世界腐敗バロメーター」「贈賄指数」を発表している。腐敗認識指数は，調査対象国の内外のビジネスマンやアナリストに腐敗度認識を尋ね指数を算定している。
Web：https://www.transparency.org/
※4. ちなみに日本は75点で18位です。
※5. Web：http://www.grameen-info.org/

地域からの発信

たった4年でシャッター商店街が再生!? ～日南市油津（あぶらつ）商店街の取り組み～

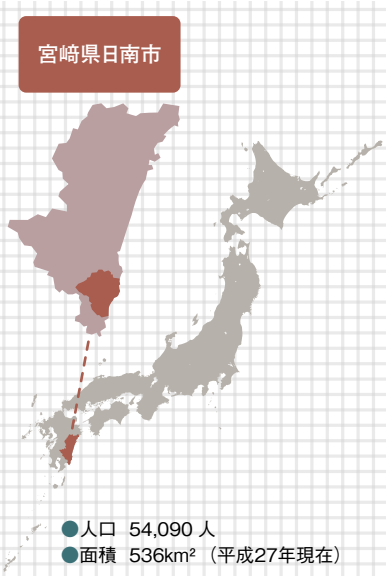
●元テナントミックスサポートマネージャー　株式会社油津応援団　専務取締役　木藤 亮太

再生へのプロローグ

▲ 現在の油津商店街

油津商店街の再生は，まちに移住したまちづくりの専門人材を核として，住民とのコミュニケーションを繰り返すことにより信頼感の上に成り立った「市民主役」の物語である。やがてそれは，全国的にも注目される取り組みとなっていった。

かつてマグロ漁や林業（飫肥杉（おびすぎ））で栄えた港町，宮崎県日南市の油津。中心商店街はいわゆるシャッター街と化していた。市はこれを何とか打開するために「4年で20店舗誘致」，「月額90万円の事業費」で人材を全国公募した。応募者333人。その中から「テナントミックスサポートマネージャー（通称サポマネ）」として筆者が選ばれたのだ。掲げたテーマは「自走できる商店街づくり」。商店街が持続的に歩んでいける状況をつくることを重視してきた。



まずは空気感を変える

空き店舗につくられたフリースペース「Yotten（よってん）」に高校生から70代まで多世代の市民が集い，商店街を応援する有志のチームが結成された。アーケードでのスポーツ観戦，親子で参加できる運動会や約50 mのロングレーンでのボウリング大会などいろいろなアイデアが生まれた。「商店街で若い人たちが面白いことをやっている」という空気は，日を増すごとに様々な市民の興味を集めていった。

▲ 有志チーム“KITOTICKET”の話し合い

思い出を大切にしたカフェ

商店街の入り口にあった名店「喫茶店・麦藁帽子（むぎわらぼうし）」。なんとこれを「ABURATSU COFFEE」として再生。以前と変わらぬ空間を懐かしむ年配層，パンケーキとラテとともにおしゃべりを楽しむ若者でいつも賑わいを見せている。まちのヒストリーを大切にし，それを現代的解釈で新しい世代に伝える。このカフェの再生は市民の共感を集め，商店街再生が本格的に動き出すきっかけ，そしてシンボルとなった。

▲ ABURATSU COFFEE

その後，空き地にコンテナのお店を並べた「アブラツガーデン」，スーパーマーケット跡の建物を改修した「屋台村（あぶらつ食堂）や交流スペース（油津Yotten）」が次々とオープン。出店はほとんどが30代の地元出身者，若い顔ぶれが商店街に加わっていったのだ。

油津応援団の結成！

こういった動きと並行して，市民有志が集まり，商店街を自走させるための組織「株式会社油津応援団」が結成される。「行政からの支援に頼り続けず，民間の発想にシフトしていくこと」を重視した会社の設立は，サポマネの動きを支え，持続的に商店街をマネジメントしていく体制へと進化を遂げたのである。

▶ アーケードでのイベント

プロ野球・広島カープとのコラボ

55年間続くプロ野球広島カープのキャンプは，商店街への集客のチャンスだ。油津ならではのお宝グッズを展示した「油津カープ館」や赤色の舗装が球場へと続く「カープ一本道」などは，全国から訪れる50,000人を超えるファンの皆様を商店街へ誘導するようにできている。水深が深い港という立地条件を生かして，海外クルーズ船の来港も大きなチャンスをもたらしている。港に降りた外国人が自然と商店街に足が向くような導線を考えた。それによって，日南特産の買い物，食事を楽しんでいただいている。

▲ カープ一本道

市民が活動する商店街

このようなまちの変化が市民の意識を徐々に変え，様々な活動につながっていく。写真集「CAPPE（カッペ）」は，油津を舞台に寂れたまち並みを美しく，そしてオシャレに見せようと撮影された写真集である。

また，アーケード下で始まったダンス教室に参加していたメンバーが集まり，商店街をPRするアイドルグループが誕生。オリジナルの歌とダンスでイベントに引っ張りだこだ。

そして，復活した商店街の夜市で出店やお化け屋敷などを実践しているのは，地元の中・高生だ。大人顔負けの売上げをあげるほどの人気企画となって今年で4年目を迎える。

これらのように，単なる商店街再生事業の枠を超えて，市民の意識に様々な反応が生まれていることは非常に価値があることである。

雇用創出の場へ

昨今は，日南市が行ってきた雇用創出事業の動きが本格化。東京に本社を構えるIT企業のサテライトオフィスが，商店街の空き店舗を活用し誕生した。現在では8社で５０名を超える新規採用を生み，若い世代の働く場が商店街に生まれてきている。ランチタイムに食事をしたりパンを買いに行ったりする姿をみると，消費人口の拡大が実感できる。

▲ IT企業のサテライトオフィス

見えてきたもの

「商店街再生」。油津での約4年間の事業を通して見えてきたもの，それは商店街のためだけではない。まちそのものが生まれ変わることを目的とすること，まちそのものの未来を描くために商店街が変化していくという視点が重要なのだ。

空き店舗を解消し，20店舗を誘致するというゴールイメージをもってスタートした油津商店街は，若者がチャレンジする場として生まれ変わった。自分たちが生まれ育ったまちを応援する気持ちを生み，そして広げていく，すると少しずつまちが変わってくる。引き続き，社会の変化に対応しつつ，発展・持続させていくこと，これからの油津商店街の課題である。いや，全国にある商店街も例外ではないのではなかろうか。これからも油津商店街の成長，そして変化に注目していただきたい。

● 問い合わせ先
株式会社油津応援団
〒887-0014　宮崎県日南市岩崎3-7-32
TEL：0987-55-7377
FAX：0987-55-7378
E-mail：info@aburatsu-o.com

しごと図鑑

子どもたちのために日本と世界をつなぐ仕事

●佐々木 佑（ささき ゆう）
PR 会社，ビジネスコンサルティングファーム，国際 NGO（非政府組織）勤務を経て，2014 年より現職。米コロンビア大学ティーチャーズカレッジで教育開発学の修士号取得。

● UNICEF 東京事務所コミュニケーション専門官 **佐々木 佑**

Q まず，お仕事の内容を教えてください。

A 私が働く UNICEF 東京事務所は，UNICEF と日本政府との関係強化を主な使命としています。日本政府は毎年，UNICEF を通して世界の子どもたちのために様々な支援をしています。私たちは，日本政府と UNICEF の橋渡しをして，日本の支援が UNICEF を通して世界の子ども達により効果的に届くようにしています。私の主な仕事の一つは，日本政府が支援した事業の様子や成果についてウェブサイトなどを通じて多くの方に知らせることです。また，UNICEF の大切なパートナーである親善大使の黒柳徹子さんや，日本の国会議員，NGO，他の国際機関などとの関係強化も担当しています。例えば，世界の子どもの状況や UNICEF の活動を日本の皆さんに知っていただくために，黒柳徹子さんと事業地に視察に行く仕事があります。そのために，事業国にある UNICEF 事務所と連絡を取りながら視察の計画・調整を行い，視察に同行し，新聞やテレビに情報提供を行います。

仕事をするうえで気を付けているのは，異なる文化背景を持った海外の人たちとのやり取りをする際に，日本人としての私の価値観を押し付けないようにすることです。できるだけ柔軟に，相手の立場に立った考え方をするように心がけています。

▲ インドでのUNICEF研修，グループワークの様子。

▲ ヨルダン市街にある，シリア難民の子どもたちへの支援を行っているセンターにて。ユニセフ議員連盟視察に同行。

Q お仕事をするきっかけを教えてください。

A 小さな頃から将来は困っている人の役に立つ仕事をしたいと漠然と考えていました。高校や大学でアメリカに留学したことをきっかけに英語を使って国際的に働きたいという夢も加わり，自然と国際開発の分野で支援活動をしたいと思うようになりました。ただ，この分野の仕事に関する情報はあまり手に入らなかったので，インターンやボランティアをして，憧れの職業で働く人や同じ分野を志望する人に会うきっかけを自分から作るようにしていました。

▲ パレスチナ西岸にて。後ろにあるのは日本政府の支援で配備されている給水車。

Q やりがいを感じる瞬間を教えてください。

A 未来を担っていく子どもたちが，教育を受け，平和のなかで愛情を受けて健康に育ち，そして夢を描いていくことを支援することほどやりがいのある仕事はあるでしょうか。東京を拠点として働く私が子どもたちと直接会う機会は少ないですが，支援を届けている国から事業成果の報告が届くたびに大変嬉しい気持ちになります。また，この仕事をしなければなかなか行けない国に行き，色々な人に会えることも大きなやりがいの一つです。私たちの事業地は大抵貧困などの深刻な問題に直面している場所ですが，笑顔の持つ力や希望を持ち続けることの重要さなど，そこで暮らしている人々から大切なことを教わることが多くあります。難しいこともたくさんありますが，世界中の異なる場所にいる人たちと共に，思いを一つにしながら子どもの支援をしていくこの仕事は，本当に素晴らしい仕事だと思っています。

▲ パレスチナ･ガザ地区にて。一部日本政府の支援で運営されている子育てサポートセンター。

“日本文教出版の新学習指導要領解説本”

平成29年告示　新学習指導要領

授業が変わる！ 新しい中学社会のポイント

新発売

27人の社会科のプロの
解説と実践がこの一冊に！

解説編

徹底解説！
新学習指導要領をどう読み解く？

実践編

「主体的・対話的で深い学び」を実現！
実力派教師による実践事例を多数収録！

編著：井田仁康（筑波大学）
中尾敏朗（群馬大学）
橋本康弘（福井大学）

定価：1,944円（本体1,800円+税8%）
B5判　216ページ

10月末　発行予定

ご注文は，最寄りの書店でお願い致します。

日本文教出版webサイトでは、各教科情報や、教育読み物、各種ダウンロード資料などを随時公開中！

日文　検索

編集後記

☺　今号より，新企画「わたしの社会貢献」が始まりました。第１回は，古地図を参考に地域の系譜を理解する小学校での出前授業を行っておられる水内俊雄先生にご執筆いただきました。

☺　近頃は古地図がにわかにブームになっているようです。火付け役はやはり，NHK の番組『ブラタモリ』でしょうか。

先日，とある先生が『ブラタモリ』の「タモリさんが気付き，専門家が説明し，アナウンサーが驚き，納得する」という構造は社会科の授業そのものだと話しておられました。

私たちも『ブラタモリ』のような心躍る探究活動を提供できる教科書・教材をこれからも作っていきたいと思います。

教科書訂正のお詫び（小学社会・５年）　◎平成２９年に供給いたしました教科書に訂正がございます。先生方におかれましては，弊社Webサイト「小学社会」資料ダウンロードページをご確認のうえご指導いただきますよう，お願い申し上げます。

大人の社会見学

時速 500kmの世界を体感できる!

山梨県立リニア見学センター

●広報・企画運営　梶原 牧子

▲走行試験を行うリニア車両を間近で見学
（走行試験のスケジュールは見学センター HP にてご確認ください）

山梨県立リニア見学センターは，山梨リニア実験線のかたわらにあり，世界で唯一，時速 500km で走行する超電導リニアを間近で見学できる施設です。お土産ショップがある「わくわくやまなし館」と，リニア試験車両をシンボル展示とし，体験型学習機能を備えた展示物など，リニアに関するさまざまな展示を行う「どきどきリニア館」の二つの建物があります。

超電導リニアとは，車両に備えられた超電導磁石と地上に設置されるコイルとの間に発生する磁力によって，車体を浮かせて走行する磁気浮上式の鉄道です。車輪とレールの間に発生する摩擦力で走る一般的な鉄道とは違い，超電導リニアは摩擦力に頼らないため，より高速かつ安全に走行できます。

「どきどきリニア館」の１Ｆにあるのが，2003年に当時の鉄道世界最速記録，時速 581 km を記録した実際の車両 MLX01-2 です。MLX01-2 は 1995 年に山梨リニア実験線のために製造された車両で，2011年まで走行試験に使用されていました。車両に触ることや車内に入ることもできます。

▲ 1F に展示している試験車両 MLX01-2

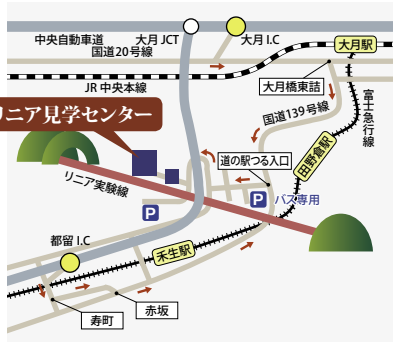
２Ｆには超電導のしくみを学ぶことができる展示があります。車両とガイドウェイに設置された３つのコイルの働きにより，浮上，走行するしくみを，電気と磁石の関係から始まる５つの体験装置を動かしながら学ぶことができます。その他，磁力による浮上，走行が体験できる全長 20m のミニリニアという展示物があります。ミニリニアは超電導リニアと同じく，磁石同士の引き合う力，反発する力を利用して進むことができ，さらに，車体そのものも磁石の反発によって数センチ浮かせています。

©Forward Stroke Inc.

▲ 超電導のしくみを体験型展示物で学習

３Ｆには大型ジオラマのほか，大型スクリーンを備えたリニアシアターがあります。前半は山梨県内交通発達の歴史が映し出され，後半はハイライトとなるリニア中央新幹線の乗車シーンとなります。出発してしばらくは車輪走行ですが，速度が上がり時速 500km の浮上走行に移行するまでを大型スクリーンと振動装置で体験できます。

リニア中央新幹線開業まであと 10 年。2027年，品川―名古屋間は最短 40 分でつながれる予定です。一足先に，リニア見学センターで時速 500 kmの世界を体感してみてください。



〒 402-0006 山梨県都留市小形山 2381
山梨県立リニア見学センター TEL：0554-45-8121
公式サイト：www.linear-museum.pref.yamanashi.jp

社会科 NAVI Vol.17

日文教育資料［小・中学校社会］

平成29年（2017年）10月16日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33367

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690